

東京高裁

# インターンシップを振り返る！ 家庭裁判所調査官

平成29年8月8日から10日までの3日間で裁判所インターンシップ(家庭裁判所調査官)を開催しました！！

16人の学生の皆さんが参加し、裁判所職員総合研修所と東京家庭裁判所において、家庭裁判所調査官の仕事を体験しました。

緊張した面持ちで1日目を迎えた皆さんでしたが、徐々に打ち解け、白熱した議論を交わしました。

参加した学生の皆さんの様子や感想をプログラムに沿ってご紹介します。

Q

裁判所や家裁調査官の仕事についての理解が深まりましたか？

実践的な内容が多かったので理解がしやすかった。(男性)

思ったよりも当事者、その家族に寄り添うことができる仕事だと分かった。(女性)

調査官としての成長や仕事に終わり、完成はないというところに非常に奥深さを感じました。(女性)

法律・心理だけではなく、本当に様々な要素が合わさった難しい職だと思った。一方で人の今後を決める、やりがいがあり責任も持たなければいけない、おもしろい職だと思った。(男性)

家裁調査官は一人の人とじっくり向き合えることができる仕事だと分かった。そのために調査、チームワークが大事であることも理解できた。(女性)

理解が深まった  
100%



# 1日目 | 裁判所職員総合研修所

## 講義／研修所見学

全員が自己紹介をした後、家庭裁判所がどのような事件を取り扱っているか及び各事件において家裁調査官がどのような役割を果たしているかについて、講義が行われました。

その後、家裁調査官になるための研修に使用する施設を見学しました。学生の皆さんは、面接技法を学ぶための面接演習室や少年審判廷を再現した模擬審判廷など、普段は見ることができない場所での見学に、真剣な眼差しで臨んでいました。



## 少年事件の調査事務 〈調査準備、模擬面接〉

傷害事件を起こした少年の模擬事例を基に、なぜ少年が暴力を振ったのかについてグループで討議をしました。討議では、様々な仮説が飛び交いました。どのような調査をすれば仮説を検証できるのかについても議論した上で、模擬事例の少年役、家裁調査官役となって、模擬面接を体験しました。学生の皆さんは、少年から話を聴くことの難しさを実感しつつも、その奥深さややりがいを感じている様子でした。



具体的に面接の進行を体験したことで理解が深まった。(男性)

なぜ少年が事件を起こしてしまったのか、有意義な議論ができた。(女性)



面接の難しさ、聞きたいことをどうやって引き出すかということの大変さを身に染みて感じられた。(女性)

いかに少年の理解度を捉えてその都度適切な声をかけることの難しさを知れた。(男性)



## 個別質問タイム

初日のカリキュラム終了後、現役の家裁調査官に個別に質問する時間が設けられました。自由参加だったのですが、ほぼ全員の学生が参加し、終了時刻まで質問が絶えることはありませんでした。

# 2日目 | 東京家庭裁判所

## 少年事件の調査事務 ＜処遇意見の検討、模擬審判、振り返り・意見交換＞

2日目は、会場を東京家裁に移し、少年の再非行を防ぐためにどうすればよいか、処遇を検討しました。様々な意見が出されましたが、学生の皆さんは、お互いの意見を尊重し合い、よりよい処遇のためにどうすべきかを真剣に検討していました。議論の結果を踏まえ、現職の裁判官との模擬カンファレンスに臨んだ際には、非常に緊張した様子でしたが、しっかりと自分たちの処遇意見を説明し、裁判官の納得を得ていました。引き続き行われた模擬審判では、一部の学生が家裁調査官役と少年役となり、厳粛な中にも温かさのある少年審判を体験しました。

自分の意見を評価してもらえたことが自信につながった。(男性)

一緒に働く裁判官から、調査官がどう見えているか知ることができた。(女性)

リアルな審判を見ることができ、調査官の少年審判廷における役割を具体的にイメージできた。(女性)

「人を裁く」というイメージを持っていたが、審判は教育的働きかけの一つだという気付きが新鮮だった。(女性)



## 裁判所見学

少年事件の調査で使用する面接室や家事事件で使用する調停室、子どもの調査で使われる児童室のほか、家裁調査官室や書記官室を見学しました。学生の皆さんは、家裁調査官の仕事の現場や職場の雰囲気を肌で感じ、家裁調査官の仕事をより具体的に理解することができた様子でした。

そこで働く職員の実際の様子があった。(男性)

普段入ることができない場所を見学して調査活動に対するイメージが湧きやすかった。(女性)

## 家事事件の調査事務 ＜講義、父・母・子どもの心情についての検討＞

後半は、家事事件についての実習でした。家事事件における家裁調査官の役割についての講義後、離婚をめぐる子どもの心情を描いたドラマを視聴しました。学生の皆さんは、真剣な眼差しでドラマを視聴し、ドラマに登場する父、母、子ども、それぞれの立場の心情について考え、グループ討議を通じて理解を深めました。



# 3日目 | 東京家庭裁判所

## 家事事件の調査事務 ＜子どもの調査の検討、模擬面接＞

家事事件において、家裁調査官が子どもの調査を行う際の計画（対象、方法、順序、場所等）の立て方や留意すべき点について講義が行われました。これを踏まえ、未成年の子のいる夫婦の離婚調停の模擬事例を基に、家裁調査官として、子どもから何をどのように聞くか、聞く際にどのようなことに留意したらよいかを検討しました。また、同事例を基に、親との模擬面接を行いました。学生の皆さんは、親の気持ちをしっかり受け止め、寄り添いながら、子どもの幸せにつながる解決を促す面接場面を体験しました。この体験を通じて、人に関わる上で必要となる姿勢など、多くの学びを得ることができた様子でした。



様々な調査の方法や対象があることを知ることができた。(男性)



同じ状況下でも、人によって面接のアプローチ方法が異なっていて面白かった。(女性)



調査官の発言を通して、母が変化していく姿を見ることができた。(男性)



調査官それぞれに個性があることや、相手の気持ちや面接の難しさを体験できた。(女性)

## 振り返り、座談会

3日間を振り返り、各実習を通して感じたことや学んだこと、これからの目標を共有しました。また、各班の実習指導官が、実習を通して気付いた各学生の長所などをフィードバックしました。短い期間でしたが、学生の皆さんは、それぞれのカリキュラムに熱心に取り組み、とても密度の濃い時間を過ごした様子で、とても充実した表情をしていました。

## 個別質問タイム

最後に設けられた個別質問タイムでは、学生の皆さんから、実習指導官が家裁調査官を志したきっかけ、家裁調査官のやりがい、調査官の業務量や待遇といった話題について、たくさんの質問が出されました。最後までリラックスした雰囲気の中でやりとりが行われました。

Q

## 参加を検討している後輩へのメッセージをお願いします。

非常に考えられた内容で有意義だった。お勧めできる。(男性)

この職業は実際に体験してみた方がよく分かる。参加して自分の課題をみつけることもいいと思う。(女性)

家庭裁判所調査官の仕事に少しでも興味を惹かれたら参加した方が良い。(男性)

最初は気負い、緊張していたが、指導官の手厚いフォローやグループワークを通じた他の参加者との交流を通じて楽しく学べる場だと思う。(女性)

人とのコミュニケーションの取り方、物事に対する捉え方という部分で非常に多くのことを学べる機会だと思う。(女性)

インターネットや本で得られる知識だけでは分からない調査官の仕事を肌で感じるができる。(女性)